

フラッシュリカバリ領域と物理ファイルの整合性チェック

■RMAN の起動

※ RMAN 操作は、サーバーのキーボード上で行う必要がある

rman target ユーザー名/パスワード@接続識別子

■バックアップ簡易確認

list backup summary;

■クロスチェック系

コントロール・ファイルの中のフラッシュリカバリ・エリアに対するカタログに、ファイル名のレコードが存在していて、実際の物理ファイルが存在しないファイル名を洗い出す

CROSSCHECK コマンドの実行時にファイルが存在しないか、アクセスできなければ、RMAN ではバックアップとコピーが **EXPIRED** としてマークされます

※archivelog all や backupset に対して実施

crosscheck [実行対象];
使用例) crosscheck backupset ;
crosscheck archivelog all ;
crosscheck copy ;

■EXPIRED 対象の削除 (ファイル不一致状態の解消)

※クロスチェック後実施

delete **expired** [実行対象];

└ crosscheck で洗い出されたファイル名のレコードを、『コントロール・ファイルの中のフラッシュリカバリ・エリアに対するカタログ』からファイル名を削除する

■リテンションが失効したものを削除するのであれば、

delete **expired** [実行対象];

(EXPIRED : リポジトリ内のステータスが **EXPIRED** になっている
ファイルのみを削除します

※ ステータスが **EXPIRED** とは、リテンションの保存期限が経過したものと、物理ファイルにアクセスが出来ない場合の 2 通りの意味があります。

■リテンションの設定は、

(例1) 多重度を3に設定

```
configure retention policy to redundancy 3;
```

--> delete expired; で3つのバックアップ・セットを残して全て削除されます。

(例2) 保存期間を14日に設定

```
configure retention policy to recovery window of 14 days;
```

--> delete expired; で14日以上前に取得されたバックアップ・セット全て削除されます。

■物理ファイルと『フラッシュリカバリ・エリアに対するカタログ』の両方からのファイルの強制削除

※archivelog all や backupset に対して実施

```
delete expired [実行対象];
```

■バックアップ登録系

※バックアップ・セットをカタログに再登録

```
catalog backuppiece 'バックアップセットファイルパス';
```

<http://d.hatena.ne.jp/t-horikawa/20100830/1283152092>

■存在しないアーカイブ REDO ログの削除

※クロスチェック後実施

```
delete force noprompt expired archivelog all ;
```

FORCE : 強制削除

NOPROMPT : 確認を求めるプロンプトを表示なし

<http://amblo.jp/archive-redo-blog/entry-10072465176.html>

■RMAN リポジトリに記録されているバックアップデータの中で、リテンション設定の保存期間を過ぎたデータについて、物理ファイルと『フラッシュリカバリ・エリアに対するカタログ』の両方からのファイルの強制削除する

```
delete obsolete ;
```

<http://okwave.jp/qa/q3087536.html>

■OS 上に存在しないものを RMAN リポジトリ管理簿より削除する

```
RMAN> crosscheck all;
```

■取得したバックアップを確認する

取得したバックアップについては、以下のコマンドで確認できます。

list backup; ← (1)

取得したバックアップをすべて表示

list backup summary; ← (2)

取得したバックアップのサマリーを表示

list **backupset**; ← (3)

バックアップ・セットで取得したバックアップをすべて表示

list copy ; ← (4)

イメージ・コピーで取得したバックアップをすべて表示

以下は、list backup コマンド (1) でデータベース全体の非一貫性バックアップを取得した出力結果です。

configure channel device type disk

format='/opt/app/oracle/oraback/full_db_%U';

backup as backupset database plus archivelog delete all input;

出力結果を見ると各バックアップ・セットに含まれるファイル情報や、バックアップサイズ、バックアップの終了時間などを確認することができます。

～省略～

BS Key	Type	LV Size	Device Type	Elapsed Time	終了時間
28	Full	863.74M	DISK	00:03:02	2006/08/30 06:49:
BP キー: 28 ステータス: AVAILABLE 圧縮: NO タグ: G20060830T064622					
ピース名: /opt/app/oracle/oraback/full_db_1chs0r1u_1_1					
バックアップ・セット 28 のデータファイルのリスト					
File	LV	Type	Ckp SCN	Ckp 時間	Name
1		Full	556897	2006/08/30 06:46:23	/opt/oracle/oradata/system01.dbf
2		Full	556897	2006/08/30 06:46:23	/opt/oracle/oradata/undotbs01.dbf
3		Full	556897	2006/08/30 06:46:23	/opt/oracle/oradata/sysaux01.dbf

～省略～

http://www.atmarkit.co.jp/ait/articles/0609/07/news112_4.html